

## 思いや考えを表現する力を育てる授業づくり

### ～読み手に伝わる作文指導を通して～

豊見城市立上田小学校教諭 下地こず恵

#### I テーマ設定の理由

平成 25 年度全国学力・学習状況調査の結果によると、「書くこと」の領域では、目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用したり複数の内容を関係付けたりしながら、自分の考えを書くことについて、依然として課題があり、指導の充実が求められている。実生活の中でも自分の考えをまとめたり思いを伝える場で、文章を書く機会が多く、伝えるために自分の考えを相手に分かりやすく書くことが必要である。中学年では、相手意識や目的意識を明確に持ち、それらに応じて工夫して書く能力やその意欲を育てていくことが大切である。また、書く活動の過程において、適切な表現になっているかを確認したり、工夫したりしようとする態度を育てていかなければならない。

これまでの実践を振り返ってみると、「書くこと」の単元では、課題を与えてはいるが「書くことがない」、「何をどう書いていいかわからない」や自分の思いや考えを適切に表現できない、単元の時間内に書き終わることができない等の児童の実態が見られた。それは、学習の見通しや目的意識、相手意識を持たすことが弱く、題材について取材する十分な時間の確保や構成、記述の指導が不十分なまま課題に取り組ませていたことが原因だと考えられる。従って、学習の見通しや目的意識、相手意識を明確に持たせ、取材、構成、記述の時間を十分に確保し、自分の思いや考えを分かりやすく伝えるための書き方の指導が欠かせないと考える。

そこで、本研究では、児童の思いや考えを表現する力を育てるために、単元で付けたい力及び系統性を明確にし、系統的・継続的な指導ができるよう単元構想図を作成する。次に、単元構想図に沿った学習計画表と作文の書き方の手引きを作成し、それに沿って学習を進めていく。さらに学習過程で相互交流をさせることにより児童が、読み手を意識した書き方が分かり、思いや考えが明確になり、書く活動に自信を持ち表現する力が育つのではないかと考え、本テーマを設定した。

#### II 研究仮説と検証計画

##### 1 研究仮説

「書くこと」の単元において、次のような学習指導の工夫を行えば、思いや考えを表現する力が育つであろう。

- (1) 単元構想図に沿った学習計画表や作文の手引きを活用した指導の工夫。
- (2) 学習過程で相互交流を行わせ、読み手を意識した書き方の指導の工夫。

##### 2 検証計画

検証授業の対象：豊見城市立上田小学校 3年3組 34名

	検証場面	検証の観点	主な検証方法
(1) 授業実践から	<取材> ① 心に残ったことの題材を集める。 ② 一番書きたいことを選ぶ。 ③ 書きたいことの手引きを集める。	・手引きを活用することにより、作文を書く視点が分かり文章を書くことができたか。	・授業観察 ・児童の発言や発表 ・作文

	<構成> ① 書こうとすることの中心を明確にする。 ② 書く事柄を整理して組み立てメモを書く。 <記述> ① 書こうとすることの中心を明確にして、事例や理由を挙げる。 <推敲> ① 読み直して、間違いがないか確かめる。 <交流> ① 他の児童に読んでもらい文章に生かす。	・交流活動を行うことで読み手を意識して文章を書くことができたか。	・交流活動 ・手引き
(2) 授業実践前後の調査	・国語意識アンケート 事前(5月) 事後(7月) ・作文		アンケート・作文の比較・分析
(3) まとめ	書くことの活動において ・手引きは有効であったか ・交流活動を行うことは有効であったか		(1), (2)の結果

### Ⅲ 研究内容

#### 1 学習計画表を作成する

学習指導要領総則の第1章第4の2の(4)には「各教科の指導に当たっては、児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫すること。」と示されている。児童に学習の見通しをもたせるためには、課題や目標を明確にして学習計画を立てることが必要となる。教師は、課題や目標を具体化して、そこに至るまでの言語活動の過程を示し、児童とともにどのように学習を進めていけばよいかを考えて、学習計画を立てていく。また、振り返り活動としての評価活動は、できたかどうかを評価表でチェックすることにとどまらず、課題や目標に照らして、どこまで、どのように達成されたか考えることが必要である。さらに、学習指導を通してどのような能力や態度が身に付いたかを整理させたり、学習した内容にどのような意義や価値があるかを考えさせたりすることが重要である。

#### 2 「書く」ということは

大越和孝氏によると、「書く」ということは、①自分自身と自分とをとりまく世界をはっきりとらえ、自分なりに判断し、把握し、分別していくということ、②生産的な活動である、③自己の内面にあるものを自分なりにまとめ、相手に伝えるために外に出す、ことである。この三つをまとめると、児童は書く(表現)という行為を通して自己を確立していくということになる。書くことは、時間と労力を要するが、表現する力として定着する部分が多いことや、じっくりと考えながら学習を進められることなどの利点がある。

#### 3 学びの道筋について

岡部千草氏の学びの道筋(図1)によると、児童は、書きたいもの・ことがあり、書く目的・方法が分かり、書く場・時間が確保され、書いてよかったという満足感・成就感がもてれば、必ず次の「書くこと」の意欲につながるとしている。

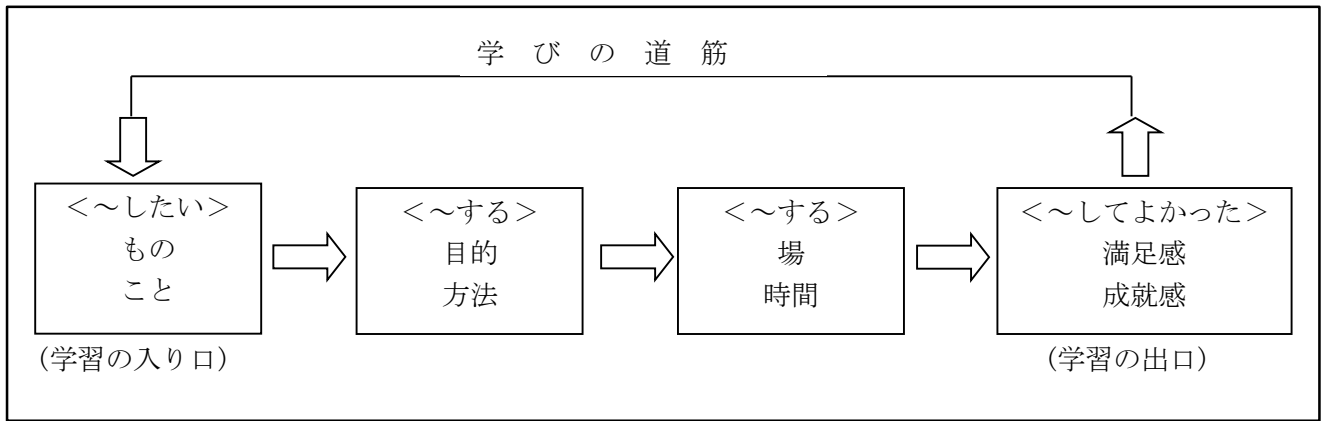


図1 学びの道筋 (新小学校国語科重点指導事項の実践開発 2010年 岡部千草氏)

#### 4 読み手を意識させることと相互交流について

##### (1) 目的意識・相手意識を持たせる

第3学年及び第4学年の書くことの目標は、相手や目的に応じという言葉から始まる。これは、何のために書くのか、なぜ書くのかという、書く目的や書く必然性にかかわるとともに、誰に書くのかという相手にかかわることであり、本来、この意識なしには、書くという行為は成立しない。目的意識・相手意識を明確にさせるということは、書く意欲を高めるという観点からも大事になってくる。逆の言い方をするならば、目的も相手もはっきりしなければ、書く意欲はわからないということになる。

##### (2) 相互交流を行うよさ

第1学年及び第2学年のオの指導事項と第3学年以上のカの指導事項は、交流に関する指導事項として位置づけられている。「感想を伝え合う」ことから、「意見を述べ合う」ことへ、さらに「助言し合う」ことへと高まっている。書く能力を伝え合う力に高める上で重要な指導事項になっている。交流活動は、推敲して書き終えた文章を読んで感想を伝え合うだけではなく、学習計画や取材、構成の段階など、各過程で交流活動を行う。交流をすることで、友達の文章を参考にしたり、友達の意見を聞いたりすることで思いや考えが広がり、相手にわかりやすくしようとする意欲につながる。

##### (3) 意図的な交流の設定

岸本憲一良氏による具体的に相手を設定した場合の「書く学習活動」のイメージが図2である。岸本氏は、「書く学習活動」において、次のような様々な交流を意図的に組織する必要があると述べている。本研究では、学習過程で、全体やグループで②「他者」との交流を中心に設定する。「他者」との交流が進むにつれ、推敲の場面では、①「想定した読み手」との交流、学習後には、④「自己の活動」との交流ができるようになる。

##### ① 「想定した読み手」との交流

相手を想定して書く場合、書き手である学習者の中に読み手をつくり、絶えずその「自己内の読み手」と対話をしながら活動を進めさせる。そうすることで、書き手は読み手との双方向を意識することができる。書くということは個人の作業ではあるが、自己と「自己内に想定した読み手」と

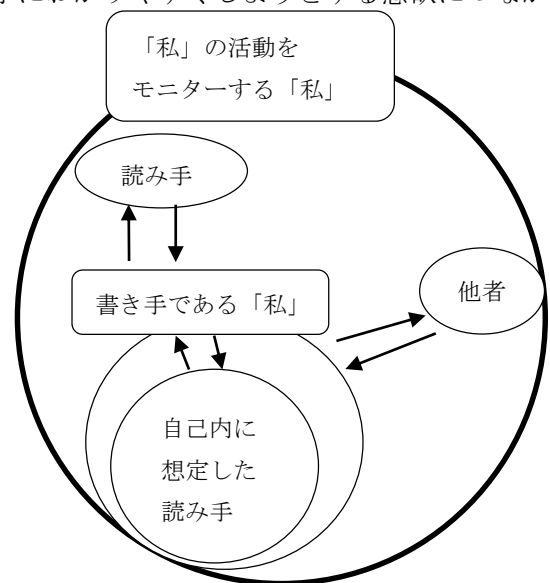


図2 「書く学習活動」のイメージ (「新たな学び」を支える国語の授業 2013年 岸本憲一良氏)

の作業であるとも言える。

② 「他者」との交流

ここでいう「他者」とは、学習者の周辺に存在する人物のことであり、級友も入る。級友との交流で特に大切にしたいことは、共同で思考する場を意図的に設けるということである。ここで共同で思考することを重視するのは、他者の思いや考え、価値観等に触れることができるからである。それによって、「私」の中に新たな気づきが生まれ、核となる「自己内に想定した読み手」との対話がより活性化されることになる。そして、その気づきが自己の向上的な変容を促し、一層効果的な文章を構築していくことにつながっていく。

③ 「実際の読み手」との交流

「実際の読み手」の反応は、学習者自身の評価につながり、次の書く活動への意欲、留意すべき点の目安を与えてくれることにつながる。

④ 「自己の活動」との交流

書く活動をしている「私」をモニターする、もう一人の「私」をつくっておくことも大切である。このことは、書く活動過程を通して、自己を省察していくことにつながる。

(4) 書き出しを工夫する

読み手に最後まで読んでもらうためには、どんなことが書いてあるのかと、読み手が期待を持って読み始める文を書くことが必要になる。そのためには、書き出し文を工夫することが大切である。本研究では、同じ題で3つの書き出しの工夫と例文(表1)を児童に提示し、書き出しの工夫を知らせる。

表1 書き出しの工夫と例文

書き出しの工夫	例文
① 日時・時間の経過から	今日は日曜日。お母さんはもう洗濯をしています。 「そうだ、今日こそおよろいを作ってみよう。」
② 会話・最初に思ったことから	「お母さん、今日は私がよろいを作ってみてもいい。」
③ コトコトことば(擬態語・擬声語) から	トントントン、私は今、ほうちょうでキュウリとトマトを切っています。

5 中心になる指導事項と単元構想図について

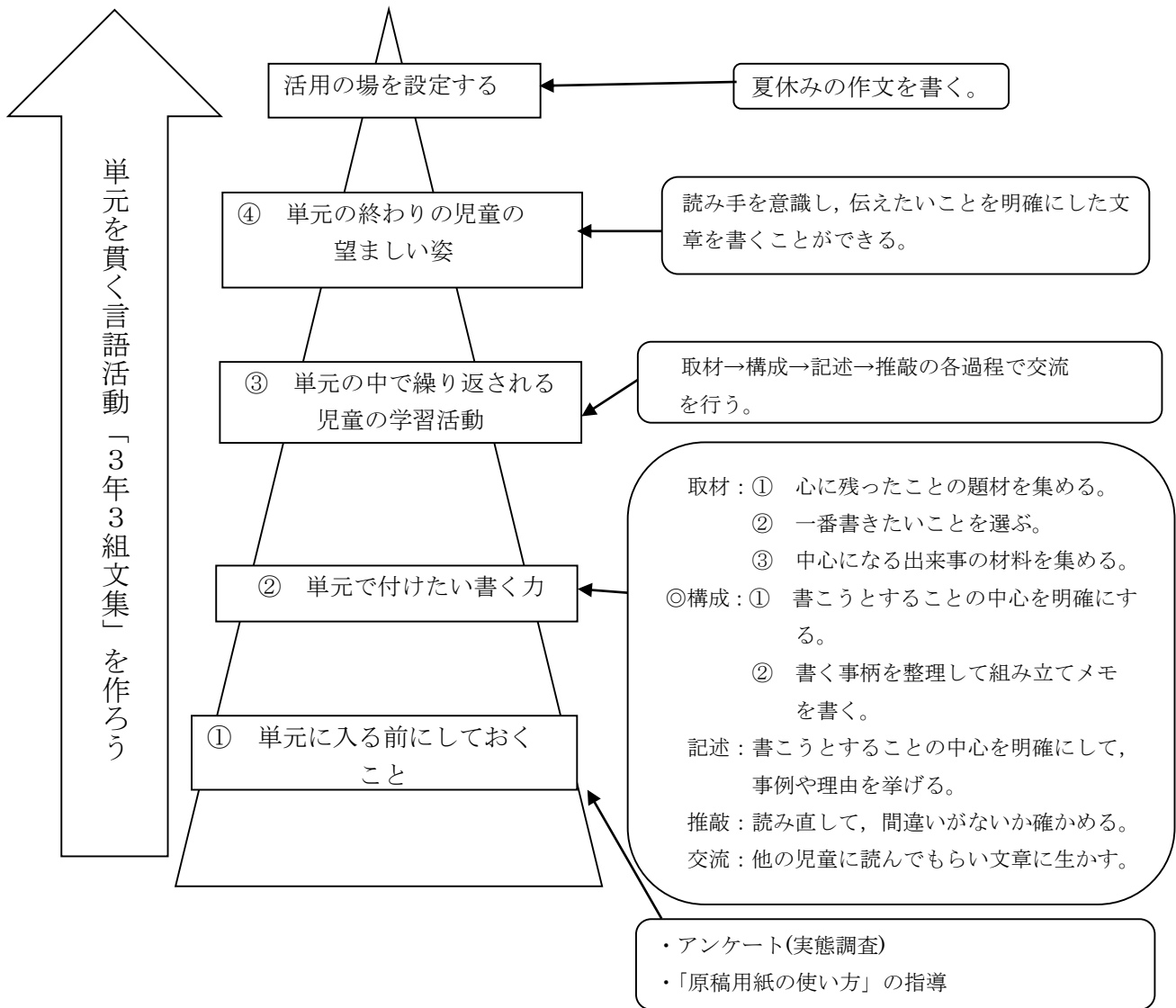
学習指導要領国語科では書くことのできる能力を育てるための指導事項として、ア「書くことの課題を決める指導事項」やカ「書いたものを交流する指導事項」が新設され、学習過程全体が分かるような内容構成となっている。キーワードを取り出して整理してみると表2のような内容構成となっている。キーワードを取り出して整理してみると表2のような内容構成となっている。波線は、本研究で中心になる指導事項である。この指導事項を基に、単元で付けたい力及び系統性を明確にし、系統的・継続的な指導ができるように単元構想図を作成する(図3)。

表2 各学年の指導事項

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
ア 課題設定・取材	経験・想像したこと 題材に必要な事柄集める	関心のあること <u>相手・目的</u> <u>書く上で必要な事柄</u> 調べる	考えたこと 目的・意図 書く事柄 収集・整理
イ 構成	順序 簡単な構成	段落相互の関係 <u>文章の構成</u>	文章全体 構成の効果
ウ エ 記述	語と語や文と文 続き方・つながり	<u>中心、理由や事例</u> 目的・必要に応じて 敬体と常体	事実と感想、意見 目的・意図に応じて 引用、図表、グラフ

オ 推敲	読み返す習慣 間違い 正す	<u>間違い 正す</u> よりよい表現	表現の効果 確かめ・工夫
カ 交流	読み合う 感想を伝え合う	発表し合う 考えの明確さ <u>意見を述べ合う</u>	発表し合う 表現の仕方 助言し合う

<単元で付けたい力>  
伝えたいことを相手に分かるように、文章を構成して書く。



- ① レディネスとして児童の実態からこの単元に入る前に指導しておくことは何か。
- ② 指導者が意識して教えるべきことは何か。
- ③ 付けたい力と目標を達成するために単元の中で繰り返される学習活動は何か。
- ④ 単元の終わりにこうあってほしいという児童の望ましい姿はどんな姿か。

図3 単元構想図

## IV 検証授業

### 1 単元名

【書く】心にのこったことを書こう

### 2 単元設定の理由

- (1) 教材観 (省略)
- (2) 児童観 (省略)
- (3) 指導観

本単元の指導にあたっては、「思いや考えを表現する力を育てる授業づくり」のテーマのもと、次のような工夫と手立てで指導を行っていく。

#### ① 手引きを作成する

本単元の学習では、学習内容を書き込めるワークシート形式の手引きを作成する。手引きは、1つ目に、作文を書くときの過程、取材→構成→記述→推敲にそって、各過程の視点を示し、自分ですすめていくことができ、また、振り返りができるような内容にする。2つ目に、作文に苦手意識を持っていても取り組むことができるように、1時間に1枚または2枚のスマールステップにする。この2つの視点をもって手引きを作成する。手引きを活用することによって、作文を書くことに対して苦手意識を持っている児童でも取り組みやすくなると考える。

#### ② 相互交流を取り入れる

交流は学習指導要領の指導事項カに、「書いたものを発表し合うことでは、推敲して書き終えた文章だけではなく、学習計画や、取材、構成の段階のメモなど書くことの学習過程についても発表し合うように工夫する」と示されている。本単元でも、取材、構成、記述、推敲の各過程で交流を行う。交流する時には、1つ目に文章の良い所を見つける。2つ目にわからない所は質問する。3つ目にくわしくするためにアドバイスをする。この3つの視点を与えて交流を行う。交流活動を行い、それをもとに手直しをすることで、読み手を意識して文章を書き自分でよりよく工夫しようとする態度をはぐくむことにつながると考える。

#### ③ 見通しと学習のゴールを示す

単元を貫く言語活動として、児童に学習の過程や学習のゴールを明確に示す。単元の学習計画表(資料1)を作成し、何時間目にどのような学習をするのか児童に確認させる。学習計画表で見通しをもつことで、学習の流れが分かり、児童が目的意識・相手意識をもってゴールに向かって学習を進めていけるようにしていく。



資料1 学習計画表

### 3 単元の指導目標

#### (1) 単元の目標

伝えたいことの中心を考えさせ、そのために必要な書く材料を選んで書かせる。

#### (2) 評価規準【学習指導要領の指導事項との関連】

関心・意欲・態度	書く	言語についての知識・理解・技能
○強く心に残ったことを思い出して紹介する文章を書くことに、意欲を持って取り組もうとしている。	○心に残った出来事を振り返り、メモを使ってくわしく思い出している。【ア】 ◎伝えたいことの中心を明確にして書くことを選び、組み立てを考えている。【イ】 ○出来事の様子がよく分かるように、した	○句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。 【イ(エ)】

	<p>ことや見たこと、会話などを取り入れて書いている。【ウ】</p> <p>○書いた文章を読み合い、心に残ったことが分かったか感想を伝え合っている。</p> <p>【カ】</p>	
--	---	--

(3) 単元の指導・評価計画(全4次, 9時間)

過程	時間	○学習活動 ☆目標 ◇交流	・教師の手立て・留意点	評価規準 (評価方法)	指導事項
第1次	1	<p>☆学習の見通しを持ち、材料を集めるメモの書き方を振り返ることができる。</p> <p>○学習のねらいを確かめ、学習の見通しを持つ。</p> <p>○「3年3組文集」を作ることを知る。</p> <p>○読み手について確認する。</p>	<p>・文章を書いたことを振り返らせる。</p> <p>・学習の見通しを持たせ、ゴールを示す。</p> <p>・文集を作り、たくさんの人に読んでもらうことを意識させる。</p> <p>・読み手は誰がいいか考えさせる。</p>	<p>関心に残ったことを伝えるために、出来事やその時の気持ちを思い出そうとしている。</p> <p>(行動観察・発言)</p>	ア
	2	<p>☆材料を集めたメモを活用し、書くことの材料を集めることができる。</p> <p>○心に残った出来事の中から主題と読み手を決める。</p> <p>◇主題や読み手を全体で交流する。</p> <p>○主題の出来事を思い出しながら書く材料をたくさん書き出す。</p>	<p>・本時のめあてを読み、文章で伝えたい心に残った出来事を決めさせる。</p> <p>・集めた出来事の中から文章に書きたい主題と読み手を決めさせる。</p> <p>・交流の仕方を教師が見本を示す。</p> <p>・主題について書く材料をたくさん集めさせる。</p>	<p>書メモを活用し、出来事を詳しく思い出して、書く材料を書き出している。</p> <p>(行動観察・手引き)</p>	ア
第2次	3	<p>☆伝えたいことを意識して大事な材料を選ぶことができる。</p> <p>○書くために落としてはいけない事柄を選ぶ。</p> <p>◇中心になる出来事などを交流する。</p> <p>○交流でアドバイスされたことをうけて推敲をする。</p>	<p>・本時のめあてを確かめ、一番伝えたいことを選ばせる。</p> <p>・中心になる出来事の詳しい様子を「おおきいみかんよ」で意識して思い出し、広げさせる。</p> <p>・選んだ観点について、どんな事を伝えたいのか交流させる。</p> <p>・交流を受けて、推敲させる。</p>	<p>書中心になる出来事を詳しく思い出して書いている。</p> <p>(行動観察・手引き)</p>	アイ
	4	<p>☆文章の組み立てを考えることができる。</p> <p>○組み立てメモの書き方がわかる。</p> <p>○組み立てメモを作る。</p> <p>◇交流をする。</p> <p>○推敲をする。</p>	<p>・本時のめあてを確かめ、組み立てメモを書くことを知らせる。</p> <p>・教科書79ページで確認させる。</p> <p>・順番があっているか交流させる。</p> <p>・アドバイスされたことを参考に推敲させる。</p>	<p>書選んだ材料をもとに「組み立てメモ」を作り、全体の流れを考えている。</p> <p>(行動観察・手引き)</p>	イ

第 3 次	5 本 時	<p>☆「組み立てメモ」をもとに、下書きをすることができる。</p> <p>○書き出しについて知る。</p> <p>○書き出しの工夫を参考に「始め」の文章を書く。</p> <p>◇「始め」の文章を交流する。</p> <p>○アドバイスを参考に推敲をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあてを確かめ「組み立てメモ」をもとに下書きすることを知らせる。</li> <li>・読み手に興味を持ってもらうように書き出し文を書くことを伝え、書き出しの例文を示す。</li> <li>・例文を参考に「始め」の文章を書かせる。</li> <li>・書いた文章を交流させる。</li> <li>・アドバイスされたことをもとに手直しをさせる。</li> </ul>	<p>書 例文を参考に「始め」の文章を工夫して書いている。 (行動観察・手引き)</p>	ウ
	6	<p>☆組み立てメモをもとに「中」を書くことができる。</p> <p>○組み立てメモの順番に沿って、文章を書く。</p> <p>◇書いた文章を交流する。</p> <p>○アドバイスを参考に推敲をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあてを確かめ「中」の文章を書くことを知らせる。</li> <li>・組み立てメモの順番に沿って、段落に気をつけさせながら書かせる。</li> <li>・書いた文章を交流させる。</li> <li>・アドバイスされたことをもとに推敲をさせる。</li> </ul>	<p>書 「組み立てメモ」をもとに中心を意識しながら、出来事の様子やそのときの気持ちが相手に伝わるように「中」の文章を書いている。 (行動観察・手引き)</p>	ウ
	7	<p>☆「終わり」の部分を書き、全体の文章を見直すことができる。</p> <p>○「終わり」を書く。</p> <p>○全体の文章を見直す。</p> <p>◇交流をする。</p> <p>○アドバイスを参考に推敲をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあてを確かめ「終わり」の文章を書き、全体の文章を見直すことを知らせる。</li> <li>・「終わり」には、出来事を通して思ったことなどを書かせる。</li> <li>・全体の文章を交流させる。</li> <li>・アドバイスされたことをもとに推敲をさせる。</li> </ul>	<p>書 「終わり」の文章を書き、伝えたいことの内容を意識しながら全体を見直している。 (行動観察・手引き)</p>	ウ
	8	<p>☆表記や表現を見直して、伝えたいことの内容を考えて清書することができる。</p> <p>○本時のめあてを確かめ、下書きを見直す。</p> <p>○文章を丁寧に清書する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあてを確かめ、下書きを読み直させる。</li> <li>・観点をもとに直させる。</li> <li>・下書きの書き込みに注意しながら、原稿用紙に文章を清書させる。</li> </ul>	<p>書 下書きの表記や表現を見直し、伝えたいことの内容が伝わるように書けているか確かめて、文章を清書している。 (行動観察・文章)</p>	ウ
第 4 次	9	<p>☆書いた文章を読み合い、感想を伝え合うことができる。</p> <p>◇書いた文章を交流する。</p> <p>◇友達の文章を読んだ感想を書く。</p> <p>○友達からの評価を読む。</p> <p>○学習を振り返り、感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあてを確かめ、清書を見直させ、読み合うことを知らせる。</li> <li>・お互いの文章の良いところや感想を発表させる。</li> <li>・友達からの評価と自分の文章を読み、学習を振り返らせる。</li> <li>・単元を通しての感想を書かせる。</li> </ul>	<p>関 書いた文章を読んだ友達の感想を聞いて、これからの自分の文章に生かそうとしている。(行動観察)</p> <p>書 書いた文章を読み合い、心に残ったことが分かったか、感想を伝え合っている。 (行動観察・手引き)</p>	カ



#### 4 本時の指導(5/9)





##### (1) 本時のねらい

「始め」の文章を工夫して書くことができる。

##### (2) 授業仮説

交流活動を行うことで、友達の文章の良い所を見つけたり、アドバイスをもらったりすることで、自分の文章を工夫して読み手を意識した文章を書くことができるであろう。

##### (3) 本時の展開

過程	主な学習活動	・教師の手立て・留意点	評価(方法)
導入	① 前時までの学習内容を振り返る。 ② 本時のめあてを確かめる。 【めあて】はじめの文章を工夫して書くことができる。	・学習の計画を確かめさせる。 ・前時までに作成した「組み立てメモ」をもとに、下書きをすることを知らせる。  計画表で本時の学習を確認。今日は第5時(記述)です。	
展開	③ 例文の工夫について話し合い、どんな所が工夫されているかを見つける。  ④ 書き出しの工夫を参考に「始め」の文章を書く。 ⑤ 「始め」の文章をグループで交流し合う。  お友達の文章を読んで、アドバイスをしています。 アドバイスすることを付箋紙に書いています。	・読み手に興味を持ってもらうような文章を書くことを伝えて例文を示し、どんな工夫があるか見つけさせる。 ・3つの例文の工夫を確認する。 ①日付から②会話から③聞こえた音から ・教材文は会話文から始まっていることを確かめ、例文の②の工夫と同じことを確認する。 ・例文を参考に「始め」の文章を書かせる。 ・「おおきいみかんよ」を参考にさせる。 ・グループ交流で、良い所を見つけ合う。	例文を参考に始めの文章を工夫して書いている。 (行動観察・ワークシート) お・音 お・思ったこと き・聞いたこと い・言ったこと み・見たこと か・感じたこと ん・考えたこと よ・様子
まとめ	⑥ 友達の文章や意見を参考に、書き加えたり直したりする。 ⑦ 数名の児童の始めの文章を教師が提示して見せる。 ⑧ 工夫している所を発表する。  ○○さんはお友達のアドバイスで、文章がぐわしくなっています。	・交流したことを参考にして、直したい所を直させる。 ・もとの文を消さずに、横に書かせる。 ・書いた文章を全員が見ることができるように電子黒板で提示し共有する。 ・工夫している所や良い所を共有することで、参考にさせる。	
	⑨ 自己評価をする。 ⑩ 次時の学習を確認する。	・工夫して「始め」の文章を書くことができたか自己評価をさせる。 ・次時の予告をし意欲をもたせる。	

## 5 授業仮説の検証

検証授業における児童の手引きや授業観察から評価表(表3)を作成した。本時の授業仮説について、それをもとに考察する。

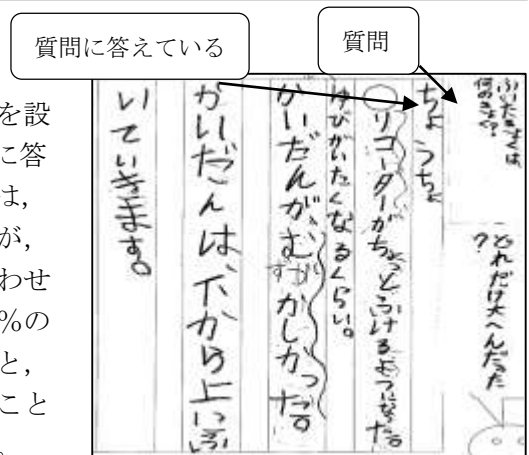
表3 評価(対象児童 34名)

検証場面	検証の視点	評価基準			検証方法	検証結果 AB合計
		A 十分満足	B 満足	C 努力を要する		
交流活動を行うことで、工夫して読み手を意識した文章を書く。	交流を行い、友達の文章の良い所を見つけたり、アドバイスをもらったりすることで、自分の文章を工夫して読み手を意識した文章を書くことができたか。	工夫して読み手を意識した文章を書くことができる。	読み手を意識した文章を書くことができる。	読み手を意識した文章を書くことができない。	授業観察 手引き	80% (27名)
	結果	65% (22人)	15% (5人)	20% (7人)		

本時の授業後に「始め」の文章を最後まで書くことができなかった児童が20%いた。授業後、手引きに教師がアドバイスを書き入れ、それをもとに翌日個別指導等を行いながら最後まで書かせた。

### 授業仮説について

交流活動での質問やアドバイスをもとに手直しをする時間を設定した。資料2の児童の手引きを見ると、質問を受け、質問に答えてより詳しい文章にすることができている。表3の評価では、交流後に、読み手を意識して工夫して書くことができた児童が、65%、読み手を意識して書くことができた児童が15%で、合わせて80%である。また、児童の本時の自己評価の割合では、74%の児童が工夫して書くことができたと答えている。交流を行うと、アドバイスをもらって自分の思いや考えをよりくわしく書くことができるようになってきていることから、交流は有効だと考える。



資料2 本時の児童の手引き

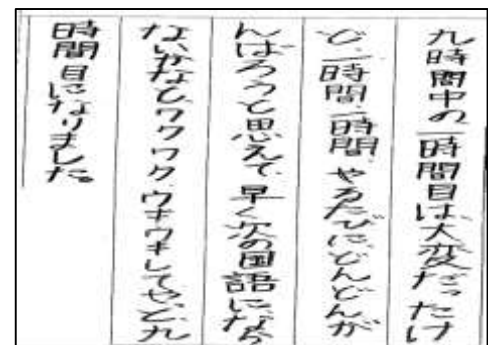
## V 研究の結果と考察

### 1 学習計画表や作文の手引きを活用した指導は有効であったか

#### (1) 学習計画表(資料1)を活用した指導

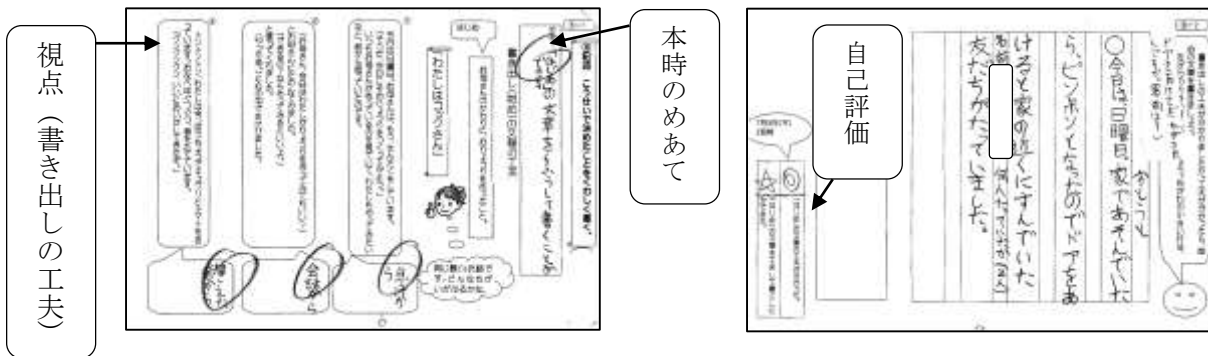
学習計画表の提示で、学習の流れがわかり、見通しをもつことができた児童の自己評価の割合は76%だった。また、授業後の毎時間の自己評価では、84%の児童が本時のねらいを達成できたとしている。これは、本時のねらいを明確に持ち、達成できるよう意欲的に取り組んだからだと考えられる。

資料3は学習計画についての児童の感想である。学習が進むにつれ、意欲が高まり第9時の読み合いを楽しみにしていることがわかる。同様の感想も多数見られた。児童の自己評価や感想から、学習計画表を活用し、学習の流れを確認することは、有効だと考える。



資料3 児童の感想

(2) 作文の手引きを活用した指導



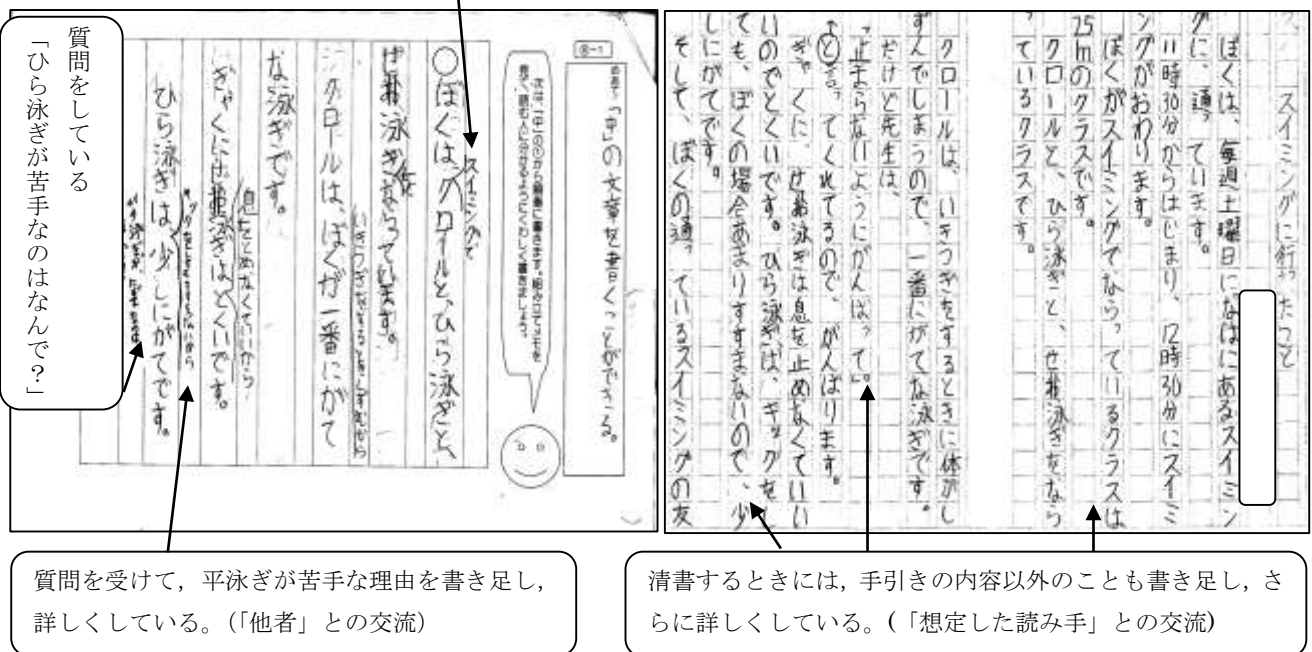
資料4 第5時の児童Aの手引きの記述

資料4は第5時の児童Aの手引きの記述である。第5時は「始め」の文章を書く時間で、表1の書き出しの工夫と例文をもとに手引きを作成した。児童Aは、手引きの例文①を選んで書いた。他の児童も例文を参考に、会話や聞こえた音などから書くことができた。児童Aは、授業後の感想で、「作文がきらいでやり方もあまりわからなかったけど、これでやり方もわかってよかった」と記述があり、他の児童も「手引き通りにやるとわかりやすかった」と記述している。また、作文に苦手意識を持っていた児童が「手引きのアドバイスがとてもわかりやすくて、早く勉強が終わりました」と感想を記述している。この事は苦手意識を持っていても、手引きで作文を書く過程の視点を与えることで書き方がわかり、毎時間の自己評価でねらいを達成できたことだと考えられる。このようなことから、作文の手引きを活用した指導は有効だと考える。

2 学習過程で相互交流を行わせ、読み手を意識した書き方の指導は有効であったか

学習過程での相互交流を、第1時～第3時まででは全体で、第4時以降はグループで行った。グループ交流する際には、相手にアドバイスや質問を付箋紙に書いて手引きに貼り、記録が残る形にした。

交流をしていくうちに、自分で言葉を付け足すことができている。(「想定した読み手」との交流)



資料5 相互交流での児童Bの変容

児童B(資料5)は、質問を受け、その理由を書き足している。理由を書いているうちに自分で詳しく書いた方がいいところを見つけて、さらに書き足している。清書をする段階では、会話文などを書き足し、詳しくしていることから、読み手を意識して文章を書いていることが分かる(「想定した読み手」との交流)。交流で、書き手、読み手の両方を体験することで、読み手に自分の思いが伝わる文章を書くことができるようになっていく。

相互交流に対するアンケート結果を見ると、88%の児童が交流をした後、アドバイスや質問に答えて文章を直すことができた(図5)。図6は国語意識アンケート結果である。検証前は、自分の思ったことや考えたことを書くことができる(44%)と答えた児童が73%だったが、検証後は85%に増えている。また、書くことができないと答えた児童が、検証後は6%から0%になり、いなくなった。このようなことから、読み手を意識させる相互交流は、思いや考えを表現する力を育てることに有効だと考える。

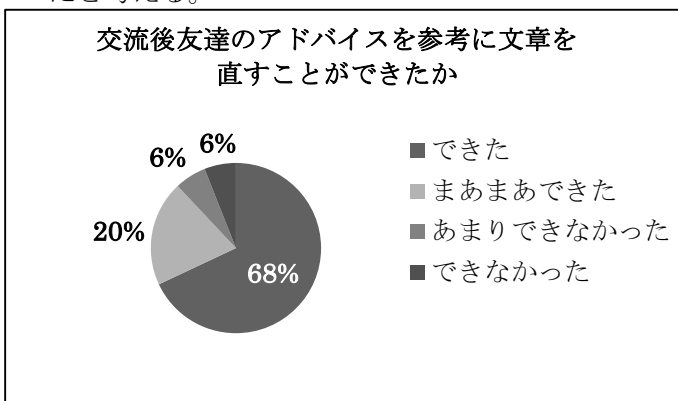


図5 交流に関するアンケート

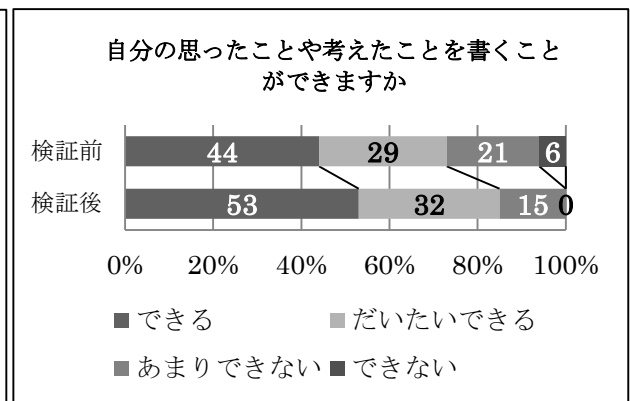


図6 国語意識アンケート

## VI 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

- (1) 作文指導において、学習計画表や作文の手引きを活用した指導を行うことで、児童が見通しをもって学習することができ、また、作文を書く視点が分かり、意欲的に学習し、思いや考えを表現する力を育てる授業づくりができた(V-1)。
- (2) 学習過程で相互交流を行い、読み手を意識させることで、児童が読み手に伝わる文章を工夫して書くことができ、思いや考えを表現する力を育てる授業づくりができた(V-2)。

### 2 今後の課題

- (1) 児童の実態や単元の内容に応じた手引きの工夫改善。
- (2) 交流活動における、作文を書く過程に沿った交流の視点の工夫。

#### 《主な参考・引用文献》

蟹江小学校	『どの子も書ける 10 分間 4 段階作文指導』	明治図書	1991 年
大越和孝 編著	『子どもが輝く国語科授業 書くこと編』	東洋館出版社	2001 年
文部科学省	『小学校学習指導要領解説 国語編』	東洋館出版社	2008 年
安彦忠彦 監修 寺井正憲・吉田裕久 編著	『小学校学習指導要領の解説と展開』	教育出版	2008 年
小森茂 編著	『新小学校国語科重点指導事項の実践開発』	明治図書	2010 年
中瀬正堯 監修 石丸憲一・岸本憲一良・香月正登 編著	『「新たな学び」を支える国語の授業』	三省堂	2013 年
廿日市小学校校内研究	『書く力を育てる授業づくり』		